

1 現状・課題

- 原子力災害時は、UPZにおいて屋内退避を行う必要があり、長期化した場合には、水、食料等生活物資の調達を適宜行う必要があるが、自然災害との複合災害により孤立が生じた場合を想定すると、生活物資を孤立のおそれがある地域内で備蓄しておく必要がある。
- 一部の品目は備蓄できていない。また、物資保管スペース確保も課題。

2 目的 原子力災害時における屋内退避の長期化に備え、UPZ内の孤立する可能性がある地域の一時集合場所（指定避難所に限る）に自然災害への備えとしての3日分に加え4日分の生活物資を備蓄する。

3 事業概要

長浜市、高島市の意見や物資保管スペース確保状況など
地域の実情を踏まえ、備蓄品目・数量を定める

国補助金対象 長浜市：10地区 7施設 576人分
高島市：15地区 6施設 418人分

品目	数量
乳児用ミルク(100ml)	360個
乳児用おむつ	1,056枚
大人用おむつ	5,676枚
トイレットペーパー	936巻
生理用品	10,750個

※水、食料、簡易トイレの4日分については、大阪・関西万博の備蓄品（1回限りの無償提供）を活用し、UPZ内孤立想定地域へ配備。

対象施設に備蓄物資を配備

物資保管スペース確保のため、保管庫を設置 6棟

UPZ内の孤立する可能性がある地域
自然災害への備え3日分 + 今回の備蓄4日分



4 費用 13,298千円

- 全額、原子力災害対策事業費補助金（補助率10/10）を充当。一般財源はなし。